

平成31(令和元)年度全国学力学習状況調査結果概要

今年度も全国学力学習状況調査が実施されました。この結果は児童の学力の全てを把握するものではなく学力の特定の一部を示しているものですが、これを分析して成果と課題を明確にし、今後の学習活動や生活の改善に活かしていくことが重要であると考えています。以下に本校の調査結果の概要を示します。



【国語】

4年生時に課題であった「書く力」については大幅に改善が見られましたが、本調査のアンケートで「国語が好き」と答えた児童が全国平均よりも少なかったこと、「テストの解答時間が足りなかった」と答えた児童が半数以上いたことから、本校では国語が苦手な児童が多いと考えられます。自分の考えをまとめて書いたりグループの話し合いで出し合った意見を整理して発表したりする機会をさらに増やすこと、国語科で学習した内容を他の教科等の学習や日常生活の中でも積極的に活用できるようにすること等に取り組み、国語力の育成を図って行きたいと思いをします。

【算数】

本調査のアンケートでは「算数が好き」「授業の内容はよく分かる」と答えた児童が70%以上おり、算数の学習に楽しく取り組んでいる児童が多いようです。これは ICT 機器を活用し、楽しい授業・分かる授業の工夫に取り組んできた成果であると考えられます。領域別に見ると4年生時の調査と同じく、図形に関する問題の正答率が比較的高くなっていました。今後も引き続き ICT 機器を積極的に活用するとともに、作業的・体験的な活動を工夫しながら理解を深める授業を展開していきたいと思いをします。

【学習状況(学習意欲・方法・環境・生活等)】

・生活面では毎日同じくらいの時刻に寝たり起きたりしている児童の割合が低く、生活が不規則になっている様子が見て取れます。また「家庭では自分で計画を立てて勉強している」と答えた児童は全国平均に比べて少なく、「家庭で全く勉強しない」と答えた児童の比率が高くなっています。家庭とも連携し規則正しい生活習慣や家庭学習の習慣を定着させる取組が必要であると考えています。

・南小は明るくまじめな児童が多く、学校生活の様々な場面で高学年らしさを発揮し頑張っていますが、「自分にはよいところがあると思う」「先生は自分のよいところをほめてくれていると思う」と答えた児童の割合が低く、自尊心や自己有用感の低さが見られます。このことは全国的にも課題となっている事象です。学校生活の様々な場面で児童が自分の役割を果たし満足感や達成感を得られる機会、グループ活動の中で自他のよさを認め合いながら主体的に取り組む機会などを設け、自尊心や自己有用感を育む取組を更にすすめていきたいと思いをします。

・授業以外に何らかの読書をする児童が80%以上、読書が好きな児童が70%以上で、読書に興味関心のある児童が多くいることが分かります。これは学校図書とともに様々な読書活動推進の取組を進めてきたことや、市やPTAの協力を得ながら学校図書館の充実を図ってきたことの成果が現れています。



・「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」の問いに対して97%の児童が肯定的な回答をしましたが、その一方で残りの3%はいじめを認める考えを持っていることが分かります。今後も引き続き規範意識の向上に向けた取組を進めていきます。